

P-63

イカリソウ配合センソ製剤の抗疲労効果

1) タイト(株)研究所、2) 富山医科薬科大学 名誉教授

○上川 浩、篠原達雄¹⁾、萩田善一²⁾

【目的】センソは強心作用を有する生薬で、これを含有する代表的な製剤として六神丸があり、動悸・息切れ・気付けに用いられている。今回、センソ製剤の抗疲労効果について検討することとし、センソ、イカリソウ配合センソ製剤及び六神丸の抗疲労効果について比較検討した。

【方法】体重3.8g前後のd d Y系雄性マウスの陰嚢に2gの荷重を負荷した後、水温25℃の水槽中で強制水泳させる。その直後に、試験薬物（センソ、イカリソウ配合センソ製剤及び六神丸）を経口投与し、投与後15、30及び60分経過した後再度強制水泳させ、その遊泳時間を測定するとともに、血液中の乳酸、ピルビン酸及びグルコース濃度を測定した。

【結果】マウスを10分間強制水泳させた場合、水泳後15分において疲労は明らかで血液中の乳酸濃度は著明に増加するが、60分後には回復して水泳前迄のレベルに戻る。また、15分後の疲労マウスを再び水泳させると、疲労しているために遊泳時間は有意に短縮するが、疲労回復した60分後のマウスは疲労していないマウスとの遊泳時間に有意差はない。これらの条件下のマウスにセンソを投与した場合、遊泳時間の延長ならびに乳酸濃度にわずかな抗疲労効果の傾向が認められるが、イカリソウ配合センソ製剤を投与した場合、15分後の疲労マウスでも遊泳時間の有意な延長が認められ、血液中の乳酸濃度は有意に低下するとともにグルコース濃度は有意に増加し抗疲労効果が認められた。しかし、六神丸には明らかな抗疲労効果は認められなかった。

【考察】センソは強制水泳による疲労に対してわずかながらの回復促進作用を有する。また、その作用はイカリソウの配合により増強され、特に極度に疲労が高まった状態において強く発現する。これらのことから、イカリソウ配合センソ製剤には疲労回復促進効果ならびに抗疲労効果が期待できる。